

② 授業づくりにPDCAサイクルを取り入れるのはなぜですか？



授業づくりに連鎖的（スパイラル）に取り組むことで、より生徒の実態を踏まえた授業へと常に改善できるからです。

これまでの授業でも、PDCAの視点で授業づくりが行われてきました。また、定期考査をはじめ、小テストや実技テストなど、生徒の学習状況をつかむために学習評価を実施してきました。

しかし、ともすれば「評価（評定）のための評価」で終わってしまっていた状況も少なからずありました。そこで、私たちは授業後に生徒の学習



状況进行评估し、その結果をもとに次の授業内容や方法を改善する、ということを大切にしたいと考えました。

本研究では、実践を前提とした計画（P）、評価を見据えた実践（D）、改善策を踏まえた評価（C）、そして次の授業計画に生かす改善策の検討（A）が、しっかりと意識できるようにします。その方法として、2種類のシートの作成を提案します。このシートを作成することによってPDCAそれぞれの取組が、連鎖的につながっていくのです。また、PDCAの視点を取り入れた授業づくりを展開する中で、何よりも「生徒を観る目」が養われることになり、教師の授業力そのものを高めることにもつながります。いずれにせよ、一人一人に応じたきめ細やかな授業が展開されることで、生徒の学力向上を図ることができるのです。